

(5) 社会教育推進のための基盤整備

生涯学習の振興に資する社会教育推進基盤の整備・充実に努める。

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業

〔事業目的及び概要〕

生涯学習振興法の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備することを目的として、生涯学習推進本部等を運営するとともに、生涯学習推進に資する施策の重要事項について総合的に調査・審議するための生涯学習審議会を運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携・協力を図り、生涯学習関連施策を一体的・効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめた。

(2) 青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(H24/8/21～H26/8/20)

○方針：青森県教育振興基本計画が目指す状態の実現のために、生涯学習分野が展開する施策について総合的に調査・審議する。

○第11期青森県生涯学習審議会における審議テーマ：

「学びと社会参加を通じた人財育成の方策について－「学びの種」を拾う－」

○会議等の概要：

第3回審議会 5/29 : 学ぶ意欲を高めるための要因について、聞き取り調査について

聞き取り調査 7～9月:13箇所

第4回審議会 10/30 : 各委員による聞き取り調査報告、報告書(または提言)の作成について

第5回審議会 2/28 : 各委員の提案について、報告書の骨子について

〔成果と課題〕

第3回審議会では、学びの種を拾うための内的要因・外的要因について審議した。聞き取り調査では、各委員が県内延べ13箇所を訪問し、学びと社会参加活動の両方を実践されている方に、自身の学びの機会、活動を始めるきっかけ、人々が学びに向かう案などを伺った。

第4回審議会では各委員からの調査報告及び報告書作成の方向性について、第5回審議会では報告書の骨子についてそれぞれ審議した。

今後は引き続き報告書の成案について審議いただき、報告書及び県民向けリーフレットを教育長に提出する予定である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業

〔事業目的及び概要〕

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う事業である。今年度はテーマを「プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査」とし、シニア世代の手前にあたる年齢層に対して現状と意識を調査し、結果を分析・考察した。

〔事業内容及び結果〕

本調査では45歳以上60歳未満を「プレ・シニア世代」と定義し、一般県民の中から対象者を抽出してアンケート方式による調査を行ってその結果を分析し、報告書を作成した。

○調査テーマ：「プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査」

○調査対象 : 2,000人

○回答者数 : 580人(29.0%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、お二人に研究顧問をお願いした。

・青森公立大学経営経済学部教授 内海 隆 氏

・弘前大学教育学部講師 松本 大 氏

○報告書：450部を印刷し、関係機関に配布した。

[成果と課題]

プレ・シニア世代の現状として、町内会や清掃活動、地域のお祭りや行事など地縁的な活動への参加が多いものの、仕事が忙しく活動に参加していない方が半数以上に上ることと、社会教育施設の利用状況についても、半数以上が利用していないことが分かった。

また、将来の学びへの希望や意識としては、地域活動や社会貢献活動への参加希望は比較的高く、また異世代との交流に対する希望も高いことが明らかになった。

今後は、これらの調査研究の成果を、シニア世代に対する支援に係る施策・事業の構築に生かしていくことが課題である。

青森県社会教育委員の運営

[事業目的及び概要]

社会教育法第17条に基づき青森県社会教育委員を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う事業である。

[事業内容及び結果]

○委員：12名（うち専門部会員5名、委員名簿はP. に掲載）

○任期：2年（H24/10/19～H26/10/18）

○第31期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「各世代が共に参画する地域コミュニティづくり

～今日的課題・地域課題への対応をふまえて～

○会議等の予定

第2回専門部会 6月上旬：調査研究の視点と調査項目について

第2回全体会 7月中旬：調査研究の具体的な内容、方法について

実地調査 8月～10月

第3回専門部会 11月中旬：調査結果の分析・考察について

第3回全体会 3月中旬：調査研究報告書の骨子について

第4回専門部会 1月中旬：分析・考察結果のとりまとめ

[成果と課題]

本県社会教育の振興方策に資するため、県内12か所の団体を訪問調査した。第31期調査研究報告書作成に向けて、実地調査事例の分析や報告書骨子について活発な協議、意見交換がなされた。

今後は、調査研究で得られた成果を、県内の社会教育関係者が広く活用できるよう、調査研究報告書の内容を精査するとともに、広く周知する方法を検討する必要がある。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成

[事業目的及び概要]

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的とし、県の社会教育施策の前年度実績及び今年度事業概要並びに各市町村における社会教育事業実施状況、社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査し、「青森県の社会教育行政」にまとめ、関係機関に配布する事業である。

[事業内容及び結果]

社会教育行政の方針と重点に基づく事業調査

生涯学習関連事業調査

市町村の社会教育行政調査

市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

「青森県の社会教育行政」の作成配付（600部）

[成果と課題]

昨年度まで別に印刷していた「生涯学習関連事業調査の結果」を統合して作成し、より本県の社会教育行政に関して情報を網羅することができた。

社会教育主事等一般研修

[事業目的及び概要]

市町村に派遣されている社会教育主事の資質・能力の向上を図ることを目的として、専門的な研修を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

- 第1回 5/9(木) 県総合社会教育センター 行政説明、ワークショップ（派遣社会教育主事の実践記録集作成に向けた骨子の検討）
- 第2回 10/10(木)～11(金) 八戸市 研究協議・講評、講話、視察
- 第3回 2/25(火) 県総合社会教育センター 講義、ワークショップ

[成果と課題]

派遣社会教育主事の実践記録集を柱として、派遣社会教育主事としての課題を共有し、お互いの業務遂行に役立てていた。1年間かけて作成した実践記録集は、次年度以降の業務の進め方の参考となり、新任の社会教育主事に対する研修資料として活用する。

来年度は、市町村の社会教育主事も参加対象とするとともに、派遣社会教育主事の実践記録集から社会教育主事の専門性を向上させる研修マニュアルを作成し、実践を記録化し省察する取組を進めたい。

生涯学習専門講座派遣事業

[事業目的及び概要]

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

- 派遣先 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- 講座名・派遣者数 社会教育主事専門講座 1名
地域教育力を高めるボランティアセミナー 1名

[成果と課題]

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、今後の業務に役立てることができた。また、教育事務所社会教育担当者会議や市町村生涯学習・社会教育担当者会議の席上で報告することにより、その成果を他の職員へ伝達することができた。

専門的職員を育成するためには、今後も継続して講座に派遣し、最新の知見を得る必要がある。

社会教育主事派遣事業

[事業目的及び概要]

町村の社会教育行政及び社会教育指導体制の充実を図ることを目的として、社会教育主事の資格を有する学校職員を町村教育委員会に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

- 派遣先 平内町 鱒ヶ沢町 鶴田町 大鱒町 野辺地町 上北地方教育・福祉事務組合 佐井村 三戸町
- 派遣者数 8名

[成果と課題]

派遣社会教育主事と町村任用の社会教育主事及び町村の社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たったことで、社会教育行政の充実が図られるとともに、派遣期間中に町村職員が社会教育主事有資格者となるため社会教育主事講習を受講するなど、社会教育指導体制の充実が図られている。

しかし、派遣人数が縮小傾向であることから、これまでの成果・効果について十分検証した結果、将来的に派遣社会教育主事を廃止し、新たな市町村支援策を行っていくとした。来年度も6名を派遣する予定であるが、新たな市町村支援策について検討し、引き続き、県と市町村が連携して生涯学習・社会教育の推進を図っていく必要がある。

社会教育主事有資格者育成派遣事業

[事業目的及び概要]

社会教育指導体制の充実を目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員等を社会教育主事講習に派遣し、社会教育主事有資格者を育成する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 社会教育主事講習(国立大学法人弘前大学)への派遣

研修期間 7/16(火)～8/8(木) ※7/16～19は宿泊研修(梵珠少年自然の家)

派遣人数 生涯学習課指導主事1名、教育事務所指導主事3名

小学校教員4名

※このほか、市町村等から13名が受講した。

(2) 社会教育主事講習[B](国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣

研修期間 1/21(火)～2/28(金) ※1/29～1/31は宿泊研修(独立行政法人国立青少年教育振興機構国立中央青少年交流の家)

派遣人数 県総合社会教育センター指導主事 1名

[成果と課題]

中南、下北、三八の教育事務所及び生涯学習課の社会教育担当者が弘前大学での社会教育主事講習を修了し、10月1日付けで社会教育主事に発令された。東青、西北、中南、上北の4地区の小学校教員及び県総合社会教育センターの指導主事は社会教育主事有資格者となった。

社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育指導体制の充実を図っていく。

在学青少年育成費補助事業

[事業目的及び概要]

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業及び青森県出身の東京都に在住する在学青少年を対象とした相談所開設事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 高校生を対象とする講演会の開催

○内容：東京及びその近郊に在住する青森県出身者ならびに青森県にゆかりのある方々を講師に、高校生を対象とした講演会を開催する。

○実施主体と協力団体：東京青森県人会、青森県高等学校長協会

開催日	場所	参加生徒数	内容
9/4(水)	むつ工業高等学校	486名	演題 「さあ、君の旅が始まるぞ！」
9/5(木)	大湊高等学校川内校舎	120名	講師 (株)TCA代表取締役 千葉 貴司
9/9(月)	青森中央高等学校	705名	演題 「出版業界の今昔と編集者の仕事について」
9/10(火)	青森北高等学校今別校舎	120名	講師 (株)日本文芸社代表取締役社長 友田 満
9/17(火)	八戸西高等学校	712名	演題 「耕せど尽きず」
9/18(水)	五戸高等学校	207名	講師 作家 青木 裕次

(2) 在学青少年を対象とする相談所の運営

○開催日：通年

○対象：東京都及び近郊に在住する在学青少年

青森県学生寮の入寮式、各高校同窓会の出席者329名に相談業務について説明

○実施主体と協力団体：東京県人会、(協力)青森県学生寮、高校同窓会、ふるさと会

○実施場所：青森県会館、各高校同窓会、ふるさと会の席上

[成果と課題]

各講演会とも、講師が県内出身者であり、高校生にとっては、グローバルな視点からの考え方や、職業に対する厳しい態度を持つことの必要性、郷土愛、向学意識を高めるなどキャリア教育の一環として有益な講演であった。

相談所の運営は、東京都周辺の大学等に在学する学生などの生活相談、進路相談、新卒者への生活相談の他、県内高校生が東京周辺の大学等へ進学する場合の相談窓口等となっているが、相談件数は低迷している。

青森県連合青年団活動費補助事業

[事業目的及び概要]

青森県連合青年団が行う事業に対し助成を行い、活動の振興を図る事業である。

[事業内容及び結果]

青森県連合青年団が実施する下記の事業に助成した。

補助対象事業名	期日	開催場所	参加人数等
第 62 回青森県青年大会 (主催事業)	7/28(日)	青森市	13 名
第 62 回全国青年大会 (主催：日本青年団協議会)	11/8(金)～11(月)	東京都：東京体育館	6 名
第 59 回青森県青年問題研究集会 (主催事業)	2/22(土)～23(日)	青森市 青森卓球会館	4 名

[成果と課題]

事業への補助を行うことで、県連合青年団の活動の振興することはできたが、県内各地の青年団活動の衰退、加盟団体及び団員数の減少により、県大会等の参加者は少なく、本来の目的である県内青年たちの交流が果たせているとは言い難い状況であることから、今後の青年大会等や県内での活動をさらに奮起させる必要がある。

青森県地域婦人団体連合会補助事業

[事業目的及び概要]

社会教育の振興を図ることを目的として、青森県地域婦人団体が実施する事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

青森県地域婦人団体研修大会への助成

- 開催期日 : 8/29(木)
- 開催場所 : 青森市民ホール
- 参加者数 : 600 名
- 研修テーマ:「今、女性に期待されること」～備えよう、乗り越えよう災害を～

[成果と課題]

三年前の東日本大震災により、安全、安心な暮らしがすべての基本である事を再認識され、また地域の絆の意義、婦人会の役割が再評価された。そのため日常生活で培われた女性の視点や、生活者としての知識経験を具現化し、地域に還元できる研修と実践力の高揚を図るため、研修大会を開催した。研修により、年に一度の県地婦連会員を集めての大会として団体の活動意識を高め、女性の社会参加活動が促進され、明るい活力ある地域社会の向上と婦人会組織の活性化の推進が図られた。今後は、また更なる各地域での活動の展開を期待するものである。

総合社会教育センター

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

[事業目的及び概要]

地域づくりの中核的役割を担う生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の育成を図ることを目的として、地域課題の把握や具体的な解決方法を探るための理論学習、協働を活かした先進的取組事例の分析等の研修や、新任の生涯学習・社会教育関係職員が市町村において活動できるよう、その基礎知識についての研修を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 基礎研修(初任者研修)

○対象 : 生涯学習・社会教育関係職員初任者

開催日	開催場所	参加者	内容
5/23(木)	県総合社会教育センター	25 人	(1) 市町村の生涯学習・社会教育の進め方 県総合社会教育センター職員 (2) 社会教育関係職員と社会教育施設(公民館)の役割について 元青森市浪岡中央公民館長 佐藤 克則 (3) 各市町村の生涯学習・社会教育事業に係る情報交換 県総合社会教育センター職員

25年度事業の実績

(2) スキルアップ研修

ア 中央研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

○場所：県総合社会教育センター

回数	開催日	参加人数	内容
第1回	7/17(水)	102人	「普段の暮らしから見る文化」 NPO法人アートコアあおもり理事長 佐々木 高雄
第2回	8/ 8(木)	16人	「メディアの活用と情報発信」 青森放送株式会社元制作局長 安達 尚彦 「チラシ・ポスターを作ろう！」 県総合社会教育センター職員
第3回	9/ 9(月)	40人	「美術館は精神の館～子どもの感性と美の世界～」 青森県立美術館長 鷹山 ひばり
第4回	11/11(月)	69人	「地域コミュニティの活性化」 高知のまちづくりを考える会代表 畠中 智子

イ 地区研修

○対象：生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等

地区	開催日	開催場所	参加人数	内容
上北	6/17(月)	東北町民文化センター	55人	「新しい地域づくりのための社会教育の役割」～ 具体的取組と企画力の向上～ プロジェクトおおわに事業協同組合 副理事長 相馬 康穂
中南	6/25(火)	弘前市立中央公民館 岩木館	81人	「地域の活性化につながる住民参加のまちづくり」～ 公民館を中心とした人づくり、絆づくり～ 東北学院大学教養学部人間科学科 科長・教授 水谷 修
東青	6/26(水)	県総合社会教育センター	27人	「住民が中心となって行う社会教育事業の推進について」 ～社会教育事業の今日的課題やその解決策～ 東北学院大学教養学部人間科学科 科長・教授 水谷 修
三八	7/ 4(木)	八戸市福祉公民館	32人	「地域リーダーが活躍できる場づくり」 ～公民館等の社会教育施設を核として～ 弘前学院大学文学部講師 生島 美和
西北	9/11(水)	深浦町町民文化ホール	22人	「社会教育施設の機能充実と活用促進」 八戸市水産科学館「マリエント」 館長 吉井 仁美 「社会教育施設の活用について」 弘前学院大学文学部講師 生島 美和
下北	10/ 2(水)	むつ市合同庁舎 大会議室	11人	「新しい地域づくりのための社会教育の役割」 ～具体的取組と企画力の向上～ 弘前観光コンベンション協会 事務局長 坂本 崇 「下北の社会教育行政について」 ～東通村を中心として～ 東通村教育委員会総括主査 社会教育主事 小山 卓臣

【成果と課題】

社会教育施設の有効活用と地域活性化を主なテーマとしたことにより、参加者の満足度は非常に高く好評であった。また、地区研修においても、各教育事務所の協力があり、全ての講座で参加者が多かった。今後は、中央研修と地区研修の位置付けをより明確なものにし、参加者にわかりやすく示すとともに、各教育事務所と意見交換を密にし、地区研修の講座内容を精選する必要がある。

県立図書館

県立図書館資料整備

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受入資料数(H25/4/1～H26/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館（本館）	16,322 冊
市町村等協力用	4,056 冊
近代文学館	3,787 冊
合計	24,165 冊

(2) 図書館利用状況(H25/4/1～H26/3/31)

図書館利用者数	380,308 名		
近代文学館利用者数	47,024 名		
年間利用資料数	一般閲覧室	193,687 冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	61,351 冊	
	オンライン貸出	8,437 冊	
	新聞未合冊等	6,884 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(838 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	40,087 冊	
	計	310,446 冊	
年間登録者数	新規登録者数	3,743 名	※アウトリーチ総登録者数を含む。
	総登録者数	27,246 名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況(H25/4/1～H26/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	5,026 冊
	県外公共図書館等	728 冊
	計	5,754 冊
団体一括貸出	28,686 冊	
集団読書用図書	220 冊	

市町村立図書館等職員研修事業

〔事業目的及び概要〕

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、初任者研修及び実務研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 青森県立図書館事業等担当者会議

- ア 開催日 5/9(木)
- イ 場所 県立図書館
- ウ 参加者 市町村立図書館等職員 45 名
- エ 内容 青森県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明

(2) 初任者研修①

- ア 開催日 5/22(水)
- イ 場所 県立図書館
- ウ 受講者 勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
- エ 参加者 市町村立図書館等職員 31 名、学校図書館業務担当職員 12 名
- オ 内容 一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修
「図書館サービス概論等の講義」

(3)初任者研修②

- ア 開催日 6/11(火)
- イ 場 所 県立図書館
- ウ 受講者 勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
- エ 参加者 市町村立図書館等職員 28名、学校図書館業務担当職員 17名
- オ 内 容 一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修
「資料管理に関する講義と演習」

(4)初任者研修③

- ア 開催日 6/27(木)
- イ 場 所 県立図書館
- ウ 受講者 勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
- エ 参加者 市町村立図書館等職員 26名、学校図書館業務担当職員 10名
- オ 内 容 一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修
「レファレンス・サービス」

(5)実務研修

- ア 開催日 10/1(火)
- イ 場 所 県立図書館
- ウ 受講者 市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長を含む)及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者
- エ 参加者 市町村立図書館等職員 26名、学校図書館業務担当職員 3名
- オ テーマ すべての人に図書館サービスを～障害者・高齢者が使いやすい図書館づくり～
- カ 講 師 埼玉県立久喜図書館 障害者サービス担当 司書主幹 佐藤 聖一氏 ほか

[成果と課題]

青森県立図書館事業等担当者会議及び初任者研修は、新しく図書館業務に従事する市町村職員等にとって、図書館全般を理解する重要な研修であるため、毎年度開催することが重要である。実務研修においては、次年度以降も市町村立図書館等に役立つ図書館の基本的なサービス及び新しい情報等を取り上げて開催していくことが課題である。

3 青少年教育施設の概要

(1) 県立青少年教育施設の利用状況

平成26年3月31日現在

		梵珠少年自然の家				種差少年自然の家			
		利用団体数	比率	延利用人数	比率	利用団体数	比率	延利用人数	比率
対象別	幼稚園・保育園	14	6.1%	795	4.3%	31	9.3%	2,016	6.5%
	小学校	103	44.6%	10,103	54.2%	82	24.6%	8,952	29.0%
	中学校	6	2.6%	945	5.1%	11	3.3%	1,797	5.8%
	高等学校	8	3.5%	1,054	5.6%	8	2.4%	936	3.0%
	特別支援諸学校	0	0.0%	0	0.0%	4	1.2%	560	1.8%
	その他の学校	2	0.9%	293	1.6%	1	0.3%	162	0.5%
	青少年団体	36	15.6%	1,638	8.8%	76	22.8%	4,566	14.8%
	成人・その他	22	9.5%	1,541	8.3%	29	8.7%	1,120	3.6%
主催事業・支援事業・出前講座		40	17.3%	2,287	12.3%	92	27.5%	10,749	34.8%
計		231	100%	18,656	100%	334	100.0%	30,858	100.0%
宿泊日数別	1日研修	66	28.6%	2,885	15.5%	183	54.8%	13,688	44.4%
	1泊2日	147	63.6%	13,398	71.8%	93	27.8%	8,042	26.1%
	2泊3日	14	6.1%	1,220	6.5%	54	16.2%	8,276	26.8%
	3泊4日以上	4	1.7%	1,153	6.2%	4	1.2%	852	2.8%
計		231	100%	18,656	100%	334	100.0%	30,858	100.0%
宿泊月別	4月	5	2.2%	393	2.1%	13	3.9%	1,730	5.6%
	5月	24	10.4%	1,975	10.6%	22	6.6%	1,230	4.0%
	6月	41	17.7%	4,072	21.8%	40	12.0%	5,212	16.9%
	7月	40	17.3%	3,205	17.2%	41	12.3%	3,957	12.8%
	8月	19	8.2%	1,687	9.0%	37	11.1%	3,874	12.6%
	9月	28	12.1%	2,710	14.5%	41	12.3%	5,179	16.8%
	10月	25	10.8%	1,614	8.7%	39	11.7%	3,095	10.0%
	11月	12	5.2%	998	5.3%	28	8.4%	1,927	6.2%
	12月	6	2.6%	602	3.2%	20	6.0%	990	3.2%
	1月	12	5.2%	527	2.8%	25	7.5%	1,186	3.8%
	2月	11	4.8%	394	2.1%	19	5.7%	1,621	5.3%
	3月	8	3.5%	479	2.6%	9	2.7%	857	2.8%
計		231	100%	18,656	100%	334	100.0%	30,858	100.0%

(2) 県立・市町村立以外の青少年教育施設の概要

公立小川原湖青年の家	〒039-2402 上北郡東北町大字大浦字道の下104-6 TEL 0176-56-2393 FAX 0176-56-5042
------------	--

■平成26年度行事予定

事業名	事業の概要		
	期日	対象・参加者数	内容
友情のつどい	5/10(土)～11(日)	小・中学生30名	青年の家での様々な活動を通じ、ふれあいと友情、絆を深めながら、青少年の豊かな心を育てる。
キッズスポーツ倶楽部 (第1回)	5/25(日)	小・中学生30名 (登録制)	様々なスポーツ体験を通して仲間とのふれあいや集団での助け合い新たなものに対するチャレンジ精神を養う。
キッズスポーツ倶楽部 (第2回)	7/20(日)	小・中学生30名 (登録制)	様々なスポーツ体験を通して仲間とのふれあいや集団での助け合い新たなものに対するチャレンジ精神を養う。
夏休み自然体験教室	7/31(木)～8/2(土)	小3～中学生40名	夏の野外活動を通じ、自然と人間の関わりについて考え、意欲的に未知のことがらに挑戦する勇氣と意志を養う。
チャレンジ・ ザ・マリンスポーツ	9/7(日)	大人15名	小川原湖周辺でカヌー・ウィンドサーフィン等のマリンスポーツに挑戦する。
自然ふれあい トレッキング	10/6(月)	大人35名	秋の山を訪ね、自然に親しみながら参加者相互の交流と親睦を深める。
キッズスポーツ倶楽部 (第3回)	10/19(日)	小・中学生30名 (登録制)	様々なスポーツ体験を通して仲間とのふれあいや集団での助け合い新たなものに対するチャレンジ精神を養う。
親子ふれあい教室	11/1(土)	小学生～大人30名	青年の家での様々な体験活動や創作活動を通じて、「青年の家」に対する理解と参加者相互の親睦を深める。
真冬の自然体験教室	2/7(土)～8(日)	小3～中学生40名	冬の野外活動を通じて自然に親しむとともに、参加者相互の親睦を深める。
キッズスポーツ倶楽部 (第4回)	2/22(日)	小・中学生30名 (登録制)	様々なスポーツ体験を通して仲間とのふれあいや集団での助け合い新たなものに対するチャレンジ精神を養う。

■平成25年度事業実績

事業名	事業の概要		
	期日	対象・参加者数	内容
わんぱく友情のつどい	5/11(土)～12(日)	小・中学生45名	青年の家での様々な活動を通じ、ふれあいと友情、絆を深めながら、青少年の豊かな心を育てる。
春のキッズ倶楽部	5/26(日)	小・中学生16名 (登録制)	四季折々の自然体験活動を通して、郷土の自然に親しみながら仲間とのふれあいを深める。
夏のキッズ倶楽部	7/13(土)～14(日)	小・中学生19名 (登録制)	四季折々の自然体験活動を通して、郷土の自然に親しみながら仲間とのふれあいを深める。
ガキ大将自然体験教室	8/1(木)～3(土)	小3～中学生43名	夏の野外活動を通じ、自然と人間の関わりについて考え、意欲的に未知のことがらに挑戦する勇氣と意志を養う。
集まれ永遠の若大将 IN小川原湖	9/7(土)～8(日)	大人11名	小川原湖周辺でカヌーの基本操作を学び、カヌーでのツーリングに挑戦する。
秋のキッズ倶楽部	10/6(日)	小・中学生16名 (登録制)	四季折々の自然体験活動を通して、郷土の自然に親しみながら仲間とのふれあいを深める。
自然ふれあい トレッキング	10/7(月)	大人21名	秋の山を訪ね、自然に親しみながら参加者相互の交流と親睦を深める。
親子で泊まろう青年の家	11/30(土) ～12/1(日)	小学生～大人27名	青年の家での様々な体験活動や創作活動を通じて、「青年の家」に対する理解と参加者相互の親睦を深める。
冬の自然体験教室	2/8(土)～9(日)	小・中学生19名	冬の野外活動を通じて自然に親しむとともに、参加者相互の親睦を深める。
冬のキッズ倶楽部	2/23(日)	小・中学生13名 (登録制)	四季折々の自然体験活動を通して、郷土の自然に親しみながら仲間とのふれあいを深める。

■平成26年度行事予定

事業名	事業の概要		
	期日	対象・参加者数	内容
第2回世界一の桜並木を ノルディックウォーク	5/11(日)	子どもから一般 100名	ノルディック・ウォークの普及を図るため世界一の桜並木のオオヤマサクラを見学しながら、2014ジャパンノルディック・ウォークプレミアムリーグ認定大会として開催する
パークゴルフ記録会	6月上旬 10月中旬	一般 30名	誰もが気軽に楽しめるパークゴルフを通じ、健康と生涯スポーツの必要性や重要性を認識し、互いの親睦を図る
岩木山ご来光・朝とり 嶽きみツアー2014	8/24(日)～25日(月)	一般 20名	お山参詣見学とご来光祈願と合せた登山や嶽きみ収穫体験等が出来るツアーを実施する。
安心・安全の学び 「防災を活かそう」	10月中旬	小学3年～中学生 50名	災害時の応急方法や調理の仕方等、いざというときの行動や処置方法を学ぶ。
スポーツ体験キャンプin岩木	11月中旬	小学3年～中学生 50名	集団生活をしながら、軽スポーツ、レクリエーション活動を通じて、スポーツに親しみ、友情と協力することの大切さを学ぶ。
第12回 岩木青少年スポーツセンター ジュニアクロスカントリー大会	12/26(金)、28(月)	小学4年～高校生 300名	シーズン最初の大会として開催し、本県クロスカントリースキー競技の普及・振興を図る。
岩木山南麓スノーウォーク体験	2月下旬	小学3年～中学生 50名	岩木山南麓をスノーシュー又はスノーハイク(スキーとスノーシューの長所を合せて作られた)を利用して、冬ならではの雪と触れ合える機会を提供し、子どもたちの健康増進に資する。

■平成25年度事業実績

事業名	期日	対象・参加者数	内容
世界一の桜並木道を ノルディック・ウォーク	5/6(月)	子どもから一般 108名	施設周辺→岩木山神社→高照神社まで ノルディック・ウォーキング
チャレンジ・ザ・ゲーム2013	5/18(土)～19(日)	小学4年～中学生 34名	ドッジボール、ツリーイング、 スラッグライン等を実施
第8回 パークゴルフ記録会	7/7(日)	一般 25名	親睦記録会を実施
岩木山ご来光 朝取り嶽きみツアー	9/4(水)～5(木)	一般 8名	岩木山登頂、嶽きみ収穫体験
ゆっくり歩こう 第1回秋の岩木山一周 体験会	9/21(土)～22(日)	子どもから一般 207名	岩木山周回道路約42キロを2日間かけてウォーキング
第9回 パークゴルフ記録会	10/6(日)	一般 29名	親睦記録会を実施
自然体験 おお牧場はみどり	10/19(土)～20(日)	小学3年～中学生 98名	自然散策、キャンプファイヤー 牧場体験を実施
第11回 岩木青少年 スポーツセンター杯 ジュニアクロスカントリー スキー大会	12/26(木)、28(土)	小学4年～高校生 204名	シーズン最初のジュニアクロスカントリースキー競技大会を開催
遊んで学ぼう！ つがるの文化	2/8(土)～9(日)	小学4年～中学生 69名	津軽凧製作、おはじきやあやとり等の 昔遊び、ゴニンカンや津軽弁かるた等の伝承遊びを実施
スノーウォーク体験会	2/22(土)、23(日)	一般 15名(2日間)	スノーシューを用いて 岩木山南麓のウォーク体験

○ 施設利用状況(主催事業を除く) 平成26年3月31日現在

小川原湖青年の家

		利用団体数	比率	延利用人数	比率
対象別	幼稚園・保育園	3	1.2%	303	1.6%
	小学校	50	20.5%	4,537	23.3%
	中学校	9	3.7%	924	4.7%
	高等学校	16	6.6%	2,490	12.8%
	特別支援諸学校	1	0.4%	114	0.6%
	その他の学校	4	1.6%	628	3.2%
	青少年団体	59	24.2%	5,003	25.7%
	成人・その他	102	41.8%	5,495	28.2%
計		244	100%	19,494	100%
宿泊日数別	1日研修	102	41.8%	4,373	22.4%
	1泊2日	106	43.4%	9,102	46.7%
	2泊3日	26	10.7%	3,384	17.4%
	3泊4日以上	10	4.1%	2,635	13.5%
計		244	100%	19,494	100%

岩木青少年スポーツセンター

		利用団体数	比率	延利用人数	比率
対象別	幼稚園・保育園	5	0.9%	470	1.3%
	小学校	77	14.2%	6,621	17.8%
	中学校	55	10.1%	6,135	16.5%
	高等学校	44	8.1%	6,025	16.2%
	特別支援諸学校	3	0.6%	126	0.3%
	その他の学校	20	3.7%	1,260	3.4%
	青少年団体	81	14.9%	9,573	25.8%
	成人・その他	258	47.5%	6,938	18.7%
計		543	100%	37,148	100%
宿泊日数別	1日研修	210	38.7%	12,862	34.6%
	1泊2日	242	44.6%	14,784	39.8%
	2泊3日	55	10.1%	5,090	13.7%
	3泊4日以上	36	6.6%	4,412	11.9%
計		543	100%	37,148	100%

[参考]平成25年度社会教育関係刊行物一覧

課・施設名		刊行物名称	発行担当G・課
生涯学習課	1	平成25年度青森県の社会教育行政	企画振興G
	2	生涯学習・社会教育総合調査研究事業 「プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査」報告書	企画振興G
	3	つながろう地域と！つなげよう未来へ！ 地域の力で夢を育む教育支援活動プログラムメニュー集	企画振興G
	4	あおもり子ども職場参観日事例集	地域連携推進G
	5	あおもり親楽プログラム（2 中・高校生編）	地域連携推進G
県立図書館	1	平成25年度青森県の図書館	企画支援課
	2	平成25年度要覧	
	3	解題書目 第42集「滝屋文書 続六」	奉仕課
	4	青森県近代文学館報第31号	近代文学館
	5	青森県近代文学館特別展図録「寺山修司没後30年」	
	6	青森県近代文学館資料集第8輯『寺山修司・草稿「狂人教育」』	
県立梵珠少年自然の家	1	平成25年度要覧「ぼんじゅ」	研修課
県立種差少年自然の家	1	平成25年度要覧「たねさし」	研修課
県総合社会教育センター	1	平成25年度要覧	総務課
	2	地域のつながり創造人育成事業報告書	育成研修課
	3	平成25年度研究紀要第25号	教育活動支援課